

8月定例教育委員会会議録

- 1 日程 令和7年8月27日（水）
- 2 場所 藤井寺市立にぎわい・まなび交流館（アイセルシュラホール）
3階 視聴覚室
- 3 案件
 - 日程第1 会議録署名委員の指定について
 - 日程第2 前回教育委員会会議録の承認について
 - 日程第3 教育長の報告について
 - 日程第4 報告第16号 教育委員会の後援名義等使用について
・・・資料1（教育総務課）
 - 日程第5 その他報告事項
 - 令和7年度全国学力・学習状況調査（調査結果概要）
について ・・・資料2（学校教育課）
 - 市立図書館耐震補強等工事について
・・・資料なし（図書館）
- 4 出席委員

教育長	見浪 陽一
教育委員(教育長職務代理者)	足立 義幸
教育委員	富山 昌克
教育委員	原 明子
教育委員	永井 由美子
- 5 教育部出席者

教育部長兼次長	大山 哲也
教育監	寺田 剛
教育総務課長	中村 真也
生涯学習課長	辻野 智一
学校教育課長	田中 守
文化財保護課長	新開 義夫
スポーツ振興課長	八木 淳一
図書館長	國頭 順子
- 6 欠席
- 7 書記 教育総務課主幹 田名出 隆行
- 8 傍聴者 0人

午後2時00分 委員会開会を宣して日程に入る。

○見浪教育長

皆さん、こんにちは。それでは、8月定例教育委員会会議を始めます。

はじめに、本日の会議録の署名委員ですが、足立委員よりしくお願いいたします。
続きまして、前回令和7年7月24日の定例教育委員会会議録につきまして、ご承認いただけますでしょうか。

○委員

「全員挙手」

○見浪教育長

ありがとうございます。では、承認ということで、よろしくお願いいたします。
次に、教育長報告を行います。

去る8月4日に大阪府庁において、府議会各会派の議員同席のもと、令和8年度大阪府当初予算編成に対する市町村要望をさせていただきました。そこで、教育委員会の項目としまして、学校教育関連では、不登校対策としての校内教育支援センター支援員の配置を増やしてほしいこと、中学校での35人学級の早期に実現させていただきたいこと、働き方改革として部活動指導員、教員業務支援員の配置に対する補助金の更なる確保をお願いしたいことについて、要望させていただきました。

また、世界遺産の保全に関して、古市古墳群に対する本市の保存・活用・整備の取組に対する宿泊税の活用も視野にいたした支援の仕組みづくりについて、また、大阪・関西万博を契機として来訪者増加を図るためのソフト施策について、府に主導的役割を果たしていただきたい旨の要望を行ったところでございます。

今後も引き続き、様々な機会をとらえて国、府に対して要望を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上報告とさせていただきます。

それでは会議次第に従いまして、議事に入ります。本日は、議案はなく、報告事項が1件、その他報告事項が2件となっております。まず、報告事項といたしまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条第1項及び藤井寺市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第3条第1項の規定により、教育長として専決しておりますので報告させていただきます。

それでは、報告第16号 教育委員会の後援名義等使用について、教育総務課長、説明願います。

○中村教育総務課長

それでは、報告第16号 教育委員会の後援名義等使用について、ご説明させていただきます。

今回の報告につきましては、令和7年7月分の使用承認で専決処理をしたものでございます。内容につきましては、資料1の5件でございます。

以上、藤井寺市教育委員会後援名義等使用承認事務取扱要綱第3条第2項に基づき、報告させていただきます。以上でございます。

○見浪教育長

ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。それでは報告第16号 教育委員会の後援名義等使用について、承認ということにさせていただきます。

続きまして、その他報告事項が2件ございます。まず、令和7年度全国学力・学習状況調査（調査結果概要）について、学校教育課長、説明願います。

○田中学校教育課長

その他報告事項「令和7年度全国学力・学習状況調査（調査結果概要）」について、ご説明させていただきます。

この全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の検証改善をすること、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に実施されております。

今年度の実施内容としましては、教科に関する調査として、小学校6年生では国語、算数、理科、中学校3年生では国語、数学、理科を実施しました。小学校の各教科および中学校の国語・数学については、例年通り冊子による筆記方式で令和7年4月17日（木）に実施され、児童・生徒質問紙は引き続きオンライン方式で、また中学校の理科についてはオンライン方式で実施されました。

なお、今回お示ししている資料2につきましては、9月上旬に市ホームページに掲載する予定となっております。小学校が緑色、中学校が青色の資料になっており、左ページが「教科に関する調査」について、右ページが「生活習慣や学習環境等に関する調査」いわゆる児童・生徒質問紙調査についての概要となります。

それでは、まず小学校の教科に関する調査について、緑色の資料の左ページをご覧ください。小学校の教科に関する調査の全体的な傾向としまして、国語、算数、理科ともに平均正答率（正答数）は、全国平均・府平均を下回っております。対全国の割合比較での変容を見ると、国語は昨年度まで改善傾向にありましたが、全国との差が開きました。算数と理科に関しては改善傾向にあり、全国水準に近づいております。

次に、中学校の教科に関する調査について、青色の資料の左ページをご覧ください。中学校の全体的な傾向として、国語、数学、理科ともに平均正答率や、後で説明させていただきますがIRTスコアにつきましては、全国平均・府平均を下回っております。対全国の割合比較での変容を見ると、国語、数学ともに課題が見られました。令和4年度の小学校6年生から今年度の中学校3年生の同一集団での変容を見てみますと、国語、数学ともに差が広がっている状態です。正答数の人数分布を見ますと、二極化が進んでいる傾向がみられまして、その要因につきましては、小中間での共有と分析が必要だと考えております。

また、理科につきましては、先ほどご説明させていただいておりましたが、1人1台タブレットPCを用いたオンラインテストとして実施され、今回よりIRT（項目反応理論）が導入されております。なお、IRT（項目反応理論）とは、異なる問題セットを解答し、各設問の難易度等を用いて、正答誤答が問題の特性によるものなのか、学力によるのかを分析し、スコアを推定する統計理論となっております。この結果の概要は、市全体としての傾向であり、全国・府・市の傾向と比較して、各学校においてどのような強みや弱みがあるのかをしっかりと分析するよう依頼しておりますが、明日行われます校長会議で改めて共有するとともに、9月3日に実施する学力向上推進委員会におきましても、全体の傾向の共有とともに、分析のポイントを示して伝える予定をしております。

また、9月下旬より学校を訪問して学力に関するヒアリングを行い、各校の分析をもとに対象学年に対して今後卒業までにどのような力をつけていくのか、学校全体でどういった取組を進めていくのかを協議していく予定をしております。

続いて、児童・生徒質問紙における傾向につきまして、小中学校ともに同じ項目を示しておりますが、まず小学校について緑色の資料の右ページをご覧ください。

1段目の自己肯定感に関する項目で、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、小学校では強い肯定的な回答がさらに向上し、全国を大きく上回っています。中学校でも引き続き向上し、全国との差が縮まっております。

次に、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しても、強い肯定的な回答が小学校では引き続き向上し、全国を上回っております。中学校でやや減少しました。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対する肯定的な回答も小学校では大きく向上し、小中学校ともに全国を上回りました。各校において、子どもの自己肯定感を高める特色ある取組や居場所づくり、大人に相談できる雰囲気づくりを行っていただいた成果が出たと考えております。

2段目は生活習慣に関する項目となっており、本市の継続課題としている、「平日に家庭学習を全くしない」割合や朝食の喫食率について、小中学校ともに改善がみられましたが、まだ全国との差は見られます。

また、去年は設問としてなかった「全く読書をしない」いわゆる不読率については、小中学校ともに増加傾向にありまして、引き続き課題であると認識しております。

これら2段目の項目に対する課題解決に向けては、引き続き学校と家庭の協力が不可欠であると考えており、それぞれの児童生徒の生活に定着することができる取組を学校とともに工夫していきたいと考えております。

3段目は授業改善に関わる項目となっており、本市の学力向上の課題・指標としております「主体的に学ぶ力」については、小学校では全国水準を維持しており、中学校では大きく向上し、全国を上回りました。

また、「協働し解決する力」については、小学校では肯定的割合が伸び全国を上回りましたが、中学校では減少しています。総合的な学習の時間における「探究的な学び」にかかる項目の肯定的な回答は、小中学校ともに全国との差はさらに縮まってきております。

最後になりますが、引き続き、誰もが大切にされる集団づくりをベースにしながら、わくわくがとまらない授業改善に向けて、学校とともに取り組んでまいりたいと考えております。以上、説明とさせていただきます。

○見浪教育長

ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。

○富山委員

グラフをぱっと見て低いという判断ではなくて、肯定的な捉え方の表現をもう少し記載されたらいいのではないのでしょうか。何よりも自己肯定感がこれだけ上がっているということは本当に喜ばしいことなので、それが大切であるというような文

面を始めや終わりに入れていただいたらいいのではと思います。そして、この自己肯定感が上がっていているところをもっともっとアピールして、藤井寺市はすごいところなんだというふうに伝えられたら、他市の人たちに関心をもっていただけますし、先生方も自信がついていくのではと思います。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○足立委員

児童・生徒質問紙についてですが、昨年のスクリーンタイムに関する項目が今回は不読率に関する項目に置き換わっていますが、今回はスクリーンタイムに関する項目はなくなったのですか。

○田中学校教育課長

今回はなくなっております。

○足立委員

児童・生徒質問紙の内容に関しては、抜粋して掲載されているのでしょうか。それとも、質問の内容の全てが掲載されているのでしょうか。

○田中学校教育課長

抜粋しての掲載になっております。実際は60問近く質問がありますので、資料で言いますと、右ページ上段の「自己肯定感」という本市で伸びてきている項目、中段の「家庭学習」「不読率」といった本市で課題であると思われる項目、そして下段の授業改善に関わってくる、一定学力との相関が見えてくるような項目について、掲載している形になっております。

○足立委員

スクリーンタイムに関する項目がなぜなくなったのかは疑問なのですが、スマホなりタブレットといったものがすごく身近になってきていて、おそらくこの「家庭学習」の項目の全く勉強しない児童生徒の割合が今年はたまたま減っていますけれども、高い水準で維持されているという状態は変わりませんし、「不読率」の項目に関しても、不読率が上がっていることからいいますと、おそらくスマホを見ている時間が長くなっているからかなという想像ができてしまうところで、他の時間に充ててくれていればいいのですけども、そのあたりをどういうふうに分析するのかによって、子どもたちへの指導とか、教育の仕方という部分に影響が出てくるのではないのかなと思うので、ここからさらに掘り下げていただけるといいのではと個人的には思っております。

○見浪教育長

スクリーンタイムについては、国の方で今回は削除されていますが、本市では独自で調査していましたよね。

○田中学校教育課長

本市では、継続して独自にスクリーンタイムについて、学期ごとに追っていつている状況でございます。

○見浪教育長

その調査の中でも、高止まりの状況になっているのですか。

○田中学校教育課長

なかなか改善は難しいところなのですが、継続的に確認していく中で、学校も意識をして、家庭との連携の部分も含めて取組を進めていきたいと考えております。

○見浪教育長

中学校3校合同で脳の機能とスクリーンタイムに関してどういった影響があるかといったことについて、講演会をされていましたよね。

○田中学校教育課長

P T A協議会で、保護者向けに講演会を開催しました。

○見浪教育長

講演というような形で、スクリーンタイムと脳の働きとの関係性といったことを医学的もしくは科学的にいろいろ説明していただくことで、家庭でも理解を深めていただいて、なかなか家庭の協力がないと進んでいけない部分でもありますので、そういった取組が中学校で連携して行われたということですね。

他に何かご質問等ございますか。

○永井委員

「朝食」の項目についてですが、喫食率がすごく低いということで、これはおそらく夜更かしをして起きることができなくてご飯が食べられないということかなと思っておりまして、やはり睡眠がとても重要であると考えております。朝食の喫食率と学力がリンクしているという内容の論文も多数ありますので、やはりよく寝て、きちんと朝食を食べて勉強に向かうという姿勢について、保健指導等を行っていただけるとありがたいと思っております。

○富山委員

その関係性についてのデータは取っているのですか。

○田中学校教育課長

そういった項目もあるので、クロス集計の形で合わせていくと、おっしゃるような傾向は出てきます。

○永井委員

朝食の喫食だけに注目するのではなく、そういうふうに関係性や要因を絡めて、指導等を行っていただければいいのかなと思っております。

本当に寝ることはとても大切で、今は睡眠の指標のようなものもできているくらいで、やはり幼い時から睡眠習慣をしっかり作っておかないと大人なってからも乱れてしまいますので、そういうことも小学校や中学校できちんと先生が指導されていくことが大切だと思っております。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○富山委員

「主体的に学ぶ力」の項目について、中学校で全国を上回っていますし、小学校の「協働し解決する力」も全国を上回っていて素晴らしいと思いますし、上回ったところをもっと褒めていくことで、さらに伸ばしていけると思います。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○原委員

資料の内容について私は会議で聞かせていただいているので、少しの差で差が大きく開いてしまうということは理解しているのですが、やはり一般の保護者の方が見るとどうしても低いと感じてしまうところもありますし、何かできることがないのかなと思う反面、「主体的に学ぶ力」や「協働し解決する力」が伸びてきていることは、これからの時代を生きていく上で重要な力なので、この伸びているところをもっと伸ばしていってあげることができればいいなと思っています。勉強もできないといけないとは思いますが、人とのコミュニケーションやみんなで解決する力は、自分の子どもたちも大きくなってきて感じているところですが、人との関わりがうまくできることや人の気持ちを考えられるといったことがしっかりできないといけない、やはりそこが基本かなと思っています。

また、スクリーンタイムについて、今はスマホやタブレットで勉強ができるアプリなどもあったりしますので、一概にスクリーンタイムが多いからといって勉強をしていないということではないと思うのですが、やはり先生の話を直接聞く方が頭にも入りやすいと思いますし、感動も大きいと思いますので、先生方も大変だと思うのですがそういう機会を増やしたり、先生が難しいのであれば、教師を目指している学生の方に勉強の仕方とかを教えてもらえる機会を作っていただければ、子どもたちもやる気が出て、そして、子どもたちを褒めることで伸びていくのではないかなと思います。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○富山委員

教育監にお聞きしたいのですが、どうすれば学力が上がっていくと考えておられますか。

○寺田教育監

まず学力ということ自体をどう捉えるかというところがありまして、いわゆる知識であったり覚えることができればいいという学力もあれば、それをどう使っていくのかという学力もある。そういった分類からいきますと、私はやはりもう覚えるだけというような学力から脱却しないといけないと思っております。

ただ、そうは言っても、ベースとなる基礎的な知識であったり技能というものは身につけさせていかなければならないと思っておりますので、そのあたりはどちらかというところ小学校の低学年が中心になっていくのかなと、そして高学年、中学生になっていくに従って、その知識や技能を使いながら自分が学びたいといったことをどんどん調べていったり、時には誤りが当然出てきたりとかするので、そこを友達などと「自分はこう思うけど、これはどうかな。」といった話をする中で、また修正していったりというようなことを地道に続けていけば、将来的な学力は上がるのではないかなと考えております。以上です。

○富山委員

ありがとうございます。点数を上げるのなら、そのテスト問題についてきちんと過去のことを調べて答え方を教えていけば、ただテストを解くということであれば、点数を上げていけると思います。きちんと問題を読めなかったら解けないわけで、国語・算数といっても算数も国語だと思っていて、最終的に小学校や中学校で求めていることは国語をきちんと理解させることができているかどうかではと思っています。その辺りがあまりできていないから低いのかなと思ったりもしているのですが、学校教育課長はどのように考えておられますか。

○田中学校教育課長

全国学力・学習状況調査について言いますと、算数の問題において、どこがどう問われているのかという部分までまずたどり着けない子たちがいるということも事実で、解答の傾向を見てみますと、問われていることから必要なグラフを選んでそれについて理由を記述するという問題などでは、今回でも小学校・中学校ともに課題が見られた部分です。

やはりそういった部分は意図的に教員が指導していかないとなかなか力がつかないところで、ある市内の小学校では2年前にそういった課題に対する分析を学校として行って、必ず算数の単元の最後に長い読解が必要な問題を取り入れていきましたという取組を学校全体でされました。そうすると、次の調査の結果として、算数、国語のどちらについても他の学校と比べてすごく大きな成果が出てきた部分がありました。本当に地道な取組になってくるとは思うのですが、子どもたちにどんな課題があるのかということを先生方が分析した上で、それに正対した取組を学校全体でやっていくことで、子どもたちも力をつけていくと考えております。

○富山委員

そういった取組を全ての学校で行うことはできないのですか。

○田中学校教育課長

全校で分析は行っています。ただ、各校それぞれの課題があり、各校の子どもの状況であったり、集団の特性であったり、学校の体制といった事情ですべての学校

で一律同じ取組をするということは難しくなってくるところがあります。そのような中でも学力向上推進委員会において共有していきますし、分析し、見えてきた課題に取り組むことを常にやっていくことで、先生たちが念頭に置いて指導に向かえるようにすることが重要であると考えております。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。

○足立委員

学力の話が出たのでそれに絡む話としまして、自己肯定感と学力の相関は何かしらあるのかと思って少し調べてみたのですが、そういったことについて分析や研究をしているところが大学で言いますと東大や、公的なところで言いますと仙台市や鹿児島県といったところが分析されておられまして、それぞれ相関はあるといったことをおっしゃっておられるんですね。

そうしますと、藤井寺市は自己肯定感が上昇傾向にあるにも関わらず、少しの差なのかもしれないのですが、学力の方はそうではない。では、相関があるということ的前提として考えたときに、本当にこれは自己肯定感が高くなっているのかなということを何となく疑問に思ってもいいのではないのかなと私は思っています。この自己肯定感というものは低いよりは高い方がいいとは思っているのですが、高すぎることもデメリットになることがあったりするようで、要は自信過剰になってしまったり、人の話を聞かなくなってしまうというようなことがデメリットとして出てきてしまう。さらに、その自己肯定感というものの解釈を間違えることもあるかもしれないですし、この自己肯定感が高まっているにも関わらず学力は上がらないというところは、何か原因があるのかどうかについて少し考えてもいいかもしれないのではと思いました。

あと、先ほど富山委員からもお話がありましたけれども、読解力に関することについてですが、人に勧められたある本がありまして、その中ではそもそも教科書が読めない子どもたちが多いということが書かれていまして、どれだけ理解をしているのかというテストがあって、理解できている子どもたちがとても少なかったという結果が出たり、さらには先生も正しく教科書の内容を理解していない方がいるというような結果も出てきたようで、読解力ということを考えてときに、そもそも教科書に書いてあることが理解できるのかどうかということも少し掘り下げて考えていかないと、根本的な解決にならないかもしれないなと思いました。

ですので、日本語の難しさという部分はおそらくあるとは思いますが、そのテストを受けたいろいろな自治体での結果を見ますと、教科書を読めない子どもたちがいる、教科書を正しく理解できてない先生たちもいるという結果が出ていますので、ひょっとしたら藤井寺市でも何かそういう状況があるのかもしれないのかなと思いました。

○見浪教育長

なかなか一概に自己肯定感がいいから点数がいいのかどうかということについては、ただ相対としてはそうであるということであって、やはり一人一人ミクロで見てみると、おそらく大分違うのだらうと思っています。

○富山委員

それぞれの結果について、小学校、中学校の資料が並列に並んでいるからなかなか見えにくい部分もあると思いますので、もっといろいろな要因があることを記載したらいいのではないのでしょうか。

先ほどおっしゃっていた、必ず算数の単元の最後に長い読解が必要な問題を取り入れていきたいと思いますという取組について、そういう取組をしていますということを記載してもらっていたら、すぐには成績が上がらなかったとしても、結果を見た人が希望を感じると思います。

○永井委員

やはり結果に対してどういうようにしていくかということが大切だと思いますので、この結果を見られた方たちに対して教育委員会や学校はどういうことをしているのかということが、情報としては欲しいところです。

ですので、こういうことをやっていて、これが数年後にはもしかしたら影響するかもしれないといったコメントを抑えていくと、結果を見られた方たちも教育委員会や学校が頑張っていることを知る機会が出来るのであって、結果だけ出されても教育委員会や学校は何をしているのかと思われるので、いろいろな取組をやっているといったことも少しコメント等で書いていただけるといいのではないかと思います。

○見浪教育長

今回を見ていますと、やはりその教科を好きになる、授業が好きになれば変わる、ということが大切であると感じました。

○富山委員

先生を嫌いになってしまったら、もうその教科が嫌いになってしまいますもんね。

○見浪教育長

先ほどわくわくがとまらないという話をしましたがけれども、やはり授業の中で子どもたちが好奇心をもって、この授業は楽しいなと思ってもらうことが大切だと思います。

○富山委員

とても難しいことですね。

○永井委員

先生の力量が試されると思います。

○見浪教育長

そのためにいろいろな取組をさせていただいているのですけれども、なかなか浸透していくという意味で言いますと、一部効果は出ていると思いますが、もっとしっかりと浸透させていくということが大切であると思っておりますので、そこは引

き続き取り組んでいきたいと考えております。

○永井委員

取組をいろいろ行ったからといって、全てうまくいくとは限らないと思いますし、いろいろな方法があると思います。また、自身のゼミ生を見ていると思いますが、皆いろいろな特性をもっているのも、やはり子どもたちに対してはいろいろと見ていくこと、きちんと継続的にやっていくということが大切であると思います。

○見浪教育長

他に何かご質問等はございますか。よろしいでしょうか。それでは、令和7年度全国学力・学習状況調査（調査結果概要）について、承認ということにさせていただきます。

次に、市立図書館耐震補強等工事について、図書館長、説明願います。

○國頭図書館長

図書館より、市立図書館耐震補強等工事について、ご報告させていただきます。資料はございません。

このたび、当該工事にかかる議会の議決を受け、9月1日（月）から図書館の工事に着手いたします。工事期間中におきましても図書館は開館いたしますが、1階の展示室、幼児コーナーにつきましてはご利用いただけません。施設利用者の駐車場等の利用状況やトイレなどの施設修繕の状況につきましては、市のホームページ等により周知するとともに、施設利用者の安全確保に努めます。

以上、図書館からのご報告とさせていただきます。

○見浪教育長

ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、委員の皆さま、何かご質問等ございますか。

○永井委員

工事が9月1日（月）からとお聞きしましたが、いつまでかかるのでしょうか。

○國頭図書館長

令和8年1月末までの予定となっております。

○見浪教育長

他に何かご質問等ございますか。よろしいですか。それでは、市立図書館耐震補強等工事について、承認ということにさせていただきます。

本日予定しておりました案件は、全て終了しました。全体を通じまして、何かご質問等ございますか。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、8月定例教育委員会議事を終了させていただきます。本日はありがとうございます。

会議事項が終了したので、閉会を宣する。

午後 3 時 0 2 分